



麦笛

27号

2017年8月26日

発行

東京尊商会広報委員会

発行人

村井 健 (51期)

TEL・FAX [redacted]

勤務先: 〒 [redacted]

TEL 03-5160-2200・FAX [redacted]

E-mail

marai-10@central.sony.co.jp

co.jp

同窓の絆

平成29年度 東京尊商会「同窓の絆」開催

東京尊商会副会長

49期 田中 光隆



残暑お見舞い申し上げます。

例年になく、暑い日々が続いております。母校も今年最後の新生を迎え入れ、3年間を有意義な青春の場として成長することを期待したいと思います。

東京尊商会は、変わりなく継続していくことで会員・幹事とお話をしております。会員さんにつきましても、年ごとに減少しておりますが、先輩諸氏より『同窓の絆』の出席を心待ちしている『旨を耳にしております。幹事とし

ても、心強く思っておりますし、期待に込められるよう後輩ともども、期待に添えられるよう企画を練っております。

今般は、在京弓道部OBの方より、過去の栄光を伝えた、弓道部の思い出を！小樽商業高校弓道部・顧問並びに現役在校生からも一筆いただきました。

大変歴史ある我が母校弓道部、インターハイ北海道予選で何回か優勝しております。100周年誌をみて、母校運動部の活躍がたくさん掲載されております。

年齢が経るほど健康維持に意識し、それぞれ体調に合わせて運動をされているようです。スポーツ観戦でも年齢を忘れ、熱の入る今日この頃です。

今年も10月28日土曜日、

東京尊商会「同窓の絆」を開催いたします。49期・50期・51期のもと応援団長が「同窓の絆」に出席いただけるよう手配をしております。

応援歌「北の都」、「海潮音」、「見よや常勝」等々昔の青春を何とか、一瞬でも取り戻すべく、声高らかに、歌いたいものです。また、九州支部より10名弱の出席打診がありました。

心より、皆さまのご出席をお待ち申し上げます。

「ニトリ」

小樽に美術館

39期 鹿摩勇夫

平成28年12月12日、東京尊商会会報誌の「麦笛26号」

の送付をいただき、「同窓の絆」創立65周年という輝かしい歴史に新たな感慨を覚えるものです。

この会の運営に係る新旧の役員の方々に、心からの敬意を表したいと思えます。母体の本部を除き、各地で開催している例では、他校には見ることでできない程の盛況を呈していると思えます。

これには会員一同誇りに思い、特筆に値します。母校は平成32年3月の卒業式をもって閉校となりますが、創立106年という世紀を超える伝統は、永遠に輝き続けると信じます。

100周年記念誌発行の素晴らしさは、改めて言うまでもなく北の商都「小樽」に庁商在り、道内きつての名門校を巣立った同窓会員2万6000人は、日本全国で活躍しております。

地元小樽の人口減少と経済の不振により衰退は、否定できませんが、郷里の懐かしさは年齢に関係なく、心の中に深く刻まれているものです。このような状況下の中、平成28年1月29日



旧三井銀行小樽支店

付、朝日新聞道内版に、「ニトリ、小樽に美術館、地元観光業者ら歓迎「色内大通り活気づく」」の見出しが掲載されました。

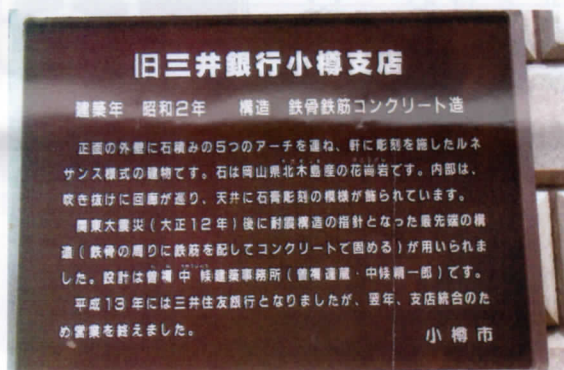
年内にも歴史的建造物を改装「家具・インテリア製造小売業最大手のニトリホールディングス(HD札幌)」が、小樽市内の歴史的建造物3棟を活用して年内にも美術館を開設する構想を固めたことに、地元でも歓迎の声が広がっている。

3棟として、旧三井銀行小樽支店、旧高橋倉庫、旧荒田商會をこれに取得し美術館開



設を含めて一帯を文化・芸術の拠点として活用する方針を示した。

旧三井銀行小樽支店の建物は、2002年に銀行の支店が撤退した後、長く閉鎖されていたものです。歴史的に変貴重な建築物で、ガイドも観光客も常に「中に入りたい!」と思っていた建物です。旧高橋倉庫と旧荒田商会は、



旧三井銀行小樽支店

建築年 昭和2年
構造 鉄骨鉄筋コンクリート造

正面の外壁に石積み5つのアーチを連ね、軒に彫刻を施したルネサンス様式の建物です。石は岡山県北木島産の花崗岩です。内部は、吹き抜けに回廊が巡り、天井に石膏彫刻の様子が飾られています。

関東大震災（大正12年）後に耐震構造の指針となった最先端の構造（鉄骨の周りに鉄筋を配してコンクリートで固める）が用いられました。設計は曾禰中條建築事務所（曾禰 達蔵・中條 精一郎）です。

平成13年には三井住友銀行となりましたが、翌年、支店統合のため営業を終えました。

小樽市



伊藤整の『雪明りの路』にちなんで名付けられたイベント「小樽雪あかりの路」。今年2月、第19回目を迎え、今では冬の北海道を代表する風物詩に。今年もローソクのあかりで小樽が彩られた。小樽商業高校でも在校生が校内の雪の中にキャンドルを置き、皆で温かい光を楽しんだ。

「小樽雪あかりの路」

@小樽商業高校

街並みは昔と全く変わらず、心地良さを感じておりましたが、もと勤務先の建

物を見るにつけ、「ああ…もったいない!」こんな立派な建物がどうして使用されないのだろう? と、東京で開催されている「三井小樽会」の懇親会でいつも話題になっておりました。

母校を卒業後、多くの諸先輩、同僚、後輩の方々が勤務されております。

立春に入った2月に、前述の吉報が小樽在住の元先輩女子行員の方から送られてきたのでした。「やった!」この歓喜を抑えきれず在住する元行員の方々へお知らせを方々コピーを送付しました。皆

さんから「陽の目に会いそうだね!」と、お礼の返信をいただきました。

尊商会会員の人も、小樽を訪れ運河の散策の折には、この建物に目にはいつたことと思います。

これに7月には、ニトリ「小樽芸術村」として、2棟をガラス美術品の展示館としてオープンしております。

小樽に関しての久々の明るいニュースに、完成時には一度は訪れたい!」の気持ちと、

閉校前の母校の姿を見たい願望に募うこの頃です。

尊商会会員の皆様にも訪れる機会を得るならば小樽の街並みと共に見学をお勧めいたします。



前列右が鹿摩さん（昭和28年）母と兄・英夫さんと三井物産社内旅行で



母校

栄光の弓道部

インターハイ全道予選大会（団体戦）
北海道高等学校弓道競技選手権大会兼
全国高等学校弓道競技選手権大会北海道予選会
優勝校・準優勝校のみ全国大会出場！

弓道の創部は、大正 13 年（1924）、戦後に剣道とともに学校から追放され、昭和 27 年に復活が認められた昭和 31 年の全道大会優勝。昭和 32 年高体連全国大会で全国 3 位（山下選手が活躍）

昭和 30 年から昭和 35 年ごろは、野立ちの弓道場で、昭和 36 年頃から昭和 54 年頃は、現在の競技場横あたりに木造の弓道場があり、昭和 55 年（1980 年）新校舎落成に合わせ、現在の弓道場も完成した。

昭和 31 年には全道大会 男子団体で優勝、男子個人優勝・長谷川欣一氏（現在 神奈川県弓道連盟会長 / 範士 8 段）男子個人 2 位 東谷正昭氏

昭和 33 年と昭和 37 年全道大会では、女子団体 優勝全道大会で 2 位は、男女合わせて 3 回、全道大会で 3 位は、男女で合わせて 5 回、個人優勝 4 人、2 位 1 人、3 位 10 人の記録を残している。（100 年誌より抜粋）

年度	男子 1 位	2 位	3 位	女子 1 位	2 位	3 位
S 31	小樽緑陵高校	北海道柏陽高校	美唄高校	☆	☆	☆
S 32	北海高校	小樽緑陵高校	美唄高校	遠軽高校	苫小牧東高校	☆
S 33	小樽北照高校	美唄高校	釧路工業高校	小樽緑陵高校	遠軽家政高校	苫小牧東高校
S 34	小樽緑陵高校	小樽北勝高校	三笠高校	遠軽高校	砂川南高校	小樽緑陵高校
S 35	遠軽高校	三笠高校	網走南ヶ丘高校	遠軽高校	小樽緑陵高校	遠軽家政高校
S 36	網走南ヶ丘高校	小樽北照高校	苫小牧東高校	遠軽高校	三笠高校	浦河高校
S 37	小樽北照高校	小樽緑陵高校	浦河高校	小樽緑陵高校	網走南ヶ丘高校	遠軽高校
S 38	三笠高校	札幌西高校	北海高校	浦河高校	遠軽高校	苫小牧東高校
S 39	札幌北高校	北海高校	小樽緑陵高校	美唄東高校	網走高校	小樽緑陵高校
S 40	遠軽高校	北見工業高校	札幌南高校	三笠高校	遠軽高校	網走南ヶ丘高校
S 41	北見柏陽高校	旭川南高校	浦河高校	芦別高校	苫小牧東高校	旭川北都商業高校
S 42	札幌旭丘高校	旭川南高校	遠軽高校	札幌慈恵高校	旭川南高校	三笠高校
S 43	赤平西高校	小樽北照高校	北見工業高校	芦別高校	留萌高校	小樽商業高校
S 44	遠軽高校	札幌第一高校	旭川北都商業高校	遠軽高校	留辺蘂高校	美瑛高校
S 45	美瑛高校	芦別高校	遠軽高校・天塩高校	遠軽高校	小樽商業高校	函館大谷高校・本別高校
S 46	北見柏陽高校	札幌第一高校	小樽北照高校・美唄工業高校	小樽双葉高校	留辺蘂高校	網走南ヶ丘高校・函館東高校
S 47	北海高校	札幌第一高校	留辺蘂高校 美唄工業高校	網走高校	足寄高校	札幌慈恵高校 砂川高校
S 48	札幌第一高校	穂別高校	小樽北照高校 北海高校	深川東高校	栗山高校	函館女子商業高校 美瑛高校
S 49	芦別高校	北海高校	岩見沢農業高校 札幌旭丘高校	札幌南高校	砂川南高校	浦河高校 網走高校
S 50	札幌第一高校	北海高校	旭川南高校・網走高校	留萌高校	函館南高校	浦河高校・苫小牧東高校
S 51	旭川農業高校	浦河高校	小樽北照高校 北見柏陽高校	小樽双葉高校	札幌慈恵高校	留萌高校 浦河高校
S 52	北海高校	旭川大学高校	小樽北照高校 北見柏陽高校	小樽双葉高校	札幌慈恵高校	穂別高校 深川西高校
S 53	小樽北照高校	美瑛高校	札幌第一高校・北海高校	浦河高校	美唄聖華高校	網走南ヶ丘高校・砂川高校
S 54	網走南ヶ丘高校	北見柏陽高校	浦河高校・足寄高校	北星女子高校	芦別高校	浦河高校・穂別高校
S 55	浦河高校	芦別高校	深川西高校・足寄高校	池田高校	浦河高校	北見柏陽高校・小樽商業高校
S 56	美唄工業高校	芦別北高校	網走西が丘高校 札幌新川高校	紋別北高校	函館東高校	留萌高校 小樽双葉高校
S 57	小樽北照高校	遠軽高校	北見高校・札幌旭丘高校	留萌高校	浦河高校	小樽双葉高校・札幌南高校
S 58	北海高校	浦河高校	富良野工業高校・遠軽高校	栗山高校	留萌高校	浦河高校・池田高校
S 59	富良野工業高校	北海高校	美唄工業高校 紋別北高校	紋別北高校	北星女子高校	浦河高校 旭川農業高校

小樽商業高校 弓道部の現役の皆さんより

弓道部に入学して

小樽商業高校 3年3組
主将 岡崎 亜美

私は、弓道部に入学し、自分が大きく成長したことを実感することが出来ました。
最初は、弓道が「かっこいい」、「先輩と仲良くなりたいたい」など軽い気持ちで弓道を始めました。
練習を重ねていくうちに弓

道は奥が深く、面白いスポーツだと思い、改めて弓道に魅力を感じました。

特に大会は、一射で勝敗が決まる手に汗握る瞬間が私にとって何よりも胸が高鳴る最高の時間です。

しかし楽しいことだけでなく、時には人間関係やスランプに悩まされました。辛くなり、何度も逃げ出したくなりましたが、周りの人の支えのおかげで、負けずに立ち向かうことが出来ました。

今では、技術的にも精神的にも成長し、今しか味わえない、かけがえのない時間を味わいながら日々練習に取り組んでいます。

弓道を通じて学んだこと

小樽商業高校

2年1組

弓道部副部長

新川 妃香莉

弓道を始めてから1年が経ちました。弓道は最初、基礎練習から始まります。私の場合、

うことで上達することを学びました。これは社会に出たときに、出来ないところを指導されたとしても、上達や出来るようになるための訓練だと思います、頑張ることができると思

他にも、部員同士で教えあうことで上達することを学びました。これは社会に出たときに、出来ないところを指導されたとしても、上達や出来るようになるための訓練だと思います、頑張ることができると思

しかし、今思うと基礎練習があつたからこそ、今安全に弓を引くことが出来ていると思います。

基礎練習は2カ月くらいありました。いつまでも引かせてもらえないことに、少しだけくじけそうになったこともありました。



5月19日に行われた高体連小樽支部大会では、女子個人で、3年生主将の岡崎亜美さんが2位になり、全道大会へ出場が決まった



全く関係ないことを考えていると、ぶれたりして思うように中らなかつたりします。

しかし、弓道を始めたことで、前よりも首長力が上がり、今まで知らなかった礼儀作法も知ることが出来ました。たとえば、立射と座射では、体配や作法が違い、危坐がまだ上手にできなかったりします。

うようになりました。私が弓道を通じて学んだことは、たくさんあります。弓道で身に付けたことは、将来に役立つと信じています。残りの時間を、先生や先輩方からたくさん学び、努力していきたい。

弓道部に入学して

小樽商業高校

2年2組

弓道部副部長

銭谷 美咲

私は、弓道部に入学して、月日は短いです。想像よりも多くの集中力が必要という事です。狙いや会に入った時は、特に集中力が必要でした。

弓道を通じて学んだこと

小樽商業高校

2年2組

弓道部副部長

谷口 璃優子

先輩に憧れて入学した弓道部ですが、最初はすぐに辞めると思っていました。中学生の頃も部活を辞めてしまっているし、何よりもすぐに弓を引けると思っていましたから



小樽商業高校、現在の弓道場



す。

入部して、初めに教えてもらったのは胴造りでした。正直、何のためなのかよく理解できなく、ただただ時間だけが過ぎて行く気がしていました。

しかし、実際に弓を引いてみると最初の基礎がどれだけ大切なのかを身に染みて感じました。きつとそれはどんなことに対しても同じだと思いました。

高校を卒業し、社会に出ても弓道を通して学んだ基礎が大切だという事を心がけて、今から頑張りたいです。

まだ弓道を初めて1年と少

しか経っていませんが、多くのことを学びました。これからも弓道をとおして様々なことを学んで行きたいです。

弓道を通じて学んだこと

小樽商業高校 2年2組

西野 景

私は、弓道部に入部し、新たなことを学びました。一つは弓道の礼儀です。弓道は見ただけで100%の完璧が求められており、審査でもすごく重要視されていることです。ひとつひとつの動作が重要で、これが練習をどれだけ積

んできたかが、解るといふ点です。普段の練習は、日々の努力の積み重ねが射の型に表れると私は思います。

もう一つは、部活外での生活です。生活

の過ごし方によって、射が変わってくると思います。普段の生活の中で重要だと思ふことは、挨拶、そして見た目だと思っています。

誰もが通う学校や就職などで使われる「挨拶」ですが、最近は若い人たちの態度があまり良くないと感じています。挨拶が出来ないことによつて自分の生活に影響が出ると、私は考えます。

弓道は、私達日本人として誇りを持ち、より美しく弓を引けるように、毎日の練習に心がけたいと思います。

弓道部卒業生の皆さまへ

小樽商業高校 2年2組

吉田 祐佳

かつて生徒だった先輩の皆さんがこちらの弓道場で、練習されている姿を頭に思い描くと、不思議な縁を感じます。

ただ漠然

とかっと思い

入部しました

が、掃除から始まり、道場での礼儀作法を学び、文武両道の精神に

心が洗われる様になりました。

試合の時に、袴を着て射場に立つときは、今でも経験したことのない緊張感の中で、試合に挑むことが出来ました。

まだまだ射率の低い私ですが、素晴らしい先生、先輩や仲間たちに囲まれ、毎日の部活を頑張っています。

あと2年で小樽商業高校は閉校になってしまいます。どうか閉校する前に、学校弓道場に来てください。

いつか、お会いできるのを心よりお待ちしております。

小樽商業高校 弓道部顧問

梅崎 真規子

平成20年に本校に赴任し、以来約10年間、弓道部顧問を務めさせていただいています。

私自身は、弓道部の顧問になってから、弓道を始めました。

本校弓道部の卒業生であり、現小樽弓道連盟 梶奉 紘会長の指導のもと、現在は生徒と一緒に練習に取り組んでいます。

現在の学校弓道場には、昭和32年から平成29年3月

までの卒業生名が書かれた名札があります。

名札を見た多くの生徒たちは、数の多さに驚いています。私自身も名札を見るたびに本校弓道部の伝統の長さや重みを感じております。

私は、部活動を通じて、「感謝の心」、「仲間への思いやり」、「弓道の楽しさ」を軸として指導してきました。

自分たちが、練習に取り組めるのも、学校生活を支えてくれる家族や友人、先生方や多くの人の支えがあるからです。その支えがあつて、初めて部活動に取り組めます。

そして、一緒に練習に取り組む、互いに励まし、努力しあう仲間への感謝の気持ちや大切に、練習に取り組んでほしいと願っています。

今は、3年生1名、2年生5名、1年生2名で活動しております。少ない人数ですが毎日、一生懸命に練習に取り組んでいます。

いつか、本校で弓道を学んだ生徒が大人になり、同じ弓友として一緒に練習できる日が来るのを願っているながら、日々生徒たちを指導しております。

全道に名を知らしめた 弓道部の誇る火を消せない

小樽緑陵高校40期
長谷川欣一

小樽商業高校 100周年という輝かしい歴史と伝統の足跡を刻まれ、更なる発展を踏まえ記念すべき節目を迎えたことに心よりお慶び申し上げます。

私も昭和29年高校入学と同時に弓道部に入部して以来今日まで弓道を継続して修練してきました。その間仕事の関係、家庭の関係等断念しなければならぬ場面も度々訪れましたが、何とか困難を乗り越えられて来られたのも高校弓道部活動で培われた忍耐力が力となり困難を撥ね退けて進んでこられております。幸い元気で弓道人生一路の日々、四恩に感謝しております。

この間、小樽に帰郷する機会あるごとに小樽商業高校の弓道場に顔を出して後輩の活躍を祈り激励してきたものです。

最近では弓道部員も減少し、女子生徒のみの少人数での部活動で寂しくなってきた矢先に、名門小樽商業高校が千秋

工業高校との合併が決定したとの「緊急事態」が発生。「歴史ある4代目弓道場」も廃止になると聞き、早速、東京尊商会の弓道部OBが集まり、

現弓道部部長の梅崎先生はじめ小樽在住の弓道部OB（緑弓会）梶奉紘（小樽弓道協会会長）漆谷忠利（美園商会长）にも働きかけ、合併後も現商業の弓道場を移設するよう運動を展開しようと叡智を集め対策を練っております。

恩師長谷川讓先生の肝いりで初めて弓道場（野立道場）がジャンプ台脇の学生寮の間を利用して20坪の道場、その後商大通りに面した所に28坪野立道場と変遷を繰り返して現在の立派な弓道場となっております。

高校全道大会（インターハイ予選）で優勝を勝ち取り、第1回のインターハイ出場に始まり、数々の大会で優秀な成績と全道に名を知らしめた弓道部の誇る火を消すことはできない、と更なる結束を固めています。

幸い東京尊商会のメンバーには（水島睦夫・市川東紀宗・倉重敬子・山田幸雄・庭野久美子）と優秀な人材に恵まれますので、これから大いに小樽に道場存続の熱意を伝え

て行きたいと絆を深め実現の日に思いを馳せています。

弓が取り持った縁



42期
市川 東紀宗

60年前、級友で主将の最上君と校門脇の弓道場で早朝、夜間、左手を血豆で真っ赤にし、夜間は砂場にローソクを灯しながら、初段試験に備えていました。

試験日直前、担任の中村先生より、同じ日、小樽商大で商業英語検定試験があるので受験する様に言われ、弓道部の長谷川先生と中村先生が話し合い、商業英語検定試験を受ける事になりました。

商業英語は小樽商大の広田教授より、英文タイプは高島先生から授業を受け、準備はしてはいたのですが、当日、小樽商大で大学生の中に高校生一人という状況で、試験は上がりっぱなし。

結果は実技の英文タイプは合格、学科の商業英語は不合格。弓の試験は受けられず、トホホの状態でした。

就職は商社に入り、小樽、札幌、東京本社、海外駐在と経験を積み重ね、本社勤務時、

弓が縁で神田に弓道具店経営、弓道指導者の小山雅司社長と知り合い、同氏より弓師の小倉紫峯さん、横山高芳さん他、伝統工芸士の方々を紹介され、弓の原料である櫨（はぜ）の木の輸入に弓師数名と、中国雲南省の山奥に出張しました。

また、櫨の木輸入の話から、日本木蠟協会より、櫨の実を原料にして和蠟燭や女性の口紅を作っている会社に櫨の実を輸入して欲しいと依頼され、結局、中国林業省へ櫨の種類10万粒を提供し福建省に植林する事となりました。

これらが縁で、20年前から農林水産省のボランティアとして、「高尾山森林マラソン」の実行委員となり毎年1500人の男女が高尾山の林道を走る大会のお手伝いをしていきます。

緑陵高校で学んだ簿記、珠算、英語、商業英語、英文タイプは会社実務、実社会で活き、友達にも恵まれ、本当に良い学校で教育を受けたと感謝しています。

これまで、様々な人達よりたくさんのお恩恵、ご指導を受けておりますが、この御恩は他人にお返しすることではいようと心に決めております。77歳になりますが、まだ元

気なので、中国林業省幹旋の黄河流域に自生する「羅布麻」で作られたお茶、繊維などの健康食品の会社を自営しながら、さらに経験を積み重ねていくところです。

思い出は心の宝物

43期 加藤正巳

弓道部の思い出は60余年前の事で、年と共に希薄になっていきますが、今でも走馬灯の様に私の心の中を駆け巡っています。

当時は学校に道場は無く花園公園に有る市設道場が我々の練習の場でした。授業が終わりその足で市設道場へ向かい、道場の雑巾がけ。横一列に並び、行ったり来たり。それが終わると「安土」の整理、巻き藁練習、二・三十分の正座、その後、的の前に立つての練習でした。

旭川で行われた高体連大会は前立山田卓雄、中立ち加藤正巳、後立ち水島睦夫で出場し、団体戦では優勝を逃して涙するも、個人戦では、加藤二位、山田六位、水島射道優秀賞で入賞しました。

その夏休み、当時大学生の長谷川先輩（現在・神奈川県弓道連盟会長・範士・八段）



43期S35卒業時。前列右より近藤・水島・田中・長谷川先生・加藤・山田・瀬戸川。二列目右より桑原・漆谷・大瀬・道心・河村(敬称略)

かは他界し、鬼籍に入っている今日この頃ですが、弓道部員との「思い出は心の宝物」として残って居ます。

小樽商業高校・弓道部 現役の皆さんへ



46期
倉重敬子

弓道部の皆さま、昨年度は、ご活躍の事と思います、今年は、いかがでしたか？

私も入学とともに緑陵の弓道部に入って、練習に邁進出来たことが、一番の思い出であり、身体づくりが出来たことです。

今70歳になり、地元日野市の弓道場に入って、練習をしています。やはり眠っていた運動神経が、よみがえるのです。

今は5段に向かって、チャレンジしております。

弓道の良さは、何歳になっても、身体作りをしていけること、また心気を高めていける良いスポーツ(武道)ではないでしょうか！

弓道部の若い皆さん！10代の若さを、弓道で謳歌してください。

思い出の小樽緑陵・弓道部



47期
山田幸雄

兄が弓道をしていた関係で、早くから弓道に興味があり、小樽緑陵入学早々に弓道部に入部しました。

今考え、思い出しても一番の思い出は、2年生の時、釧路で開催された高体連で2位入賞となり、全国大会に出場できたことです。

全国大会は、大分県大分市で開催され、初めての九州、8月の真夏、暑かったこと、こんな記憶が蘇ってきました。この大会に行くために、監督の長谷川譲先生には、大変お



釧路の高体連で女子が優勝・男子が2位となり、この後男女とも大分の全国大会に出場。後列長谷川先生の左隣が山田さん。座ってカップを持っているのが、倉重(旧姓内野)さん

世話になりました。

まず、前日まで台風で、列車が動かず、幸い我々の乗車する特急列車だけが運行でき、なんとか函館へ。

函館からは、今となっては、懐かしい「青函連絡船」で青森へ。船は満席で、甲板で寝たため風邪をひき、辛い旅になりました。

青森からは、日本海側を経て大阪へ、宿は天王寺でしたが、今となってはどこらへんのか記憶ありません。

翌早朝、大阪港から関西汽船で瀬戸内海を一路、別府港へ。とにかく瀬戸内海の船旅は、快適で、次々と現れる島々の景色をくいるように見つめたことを今でも覚えております。

大会は、予選通過せず残念な成績でしたが、試合後は先生から「阿蘇山に登って、観光しながら帰ろう！」と聞かされ、列車を乗り継いながら阿蘇へ。その後、どんな経路で帰ってきたのか、さっぱり思い出せません。

あの時は、女子も全国大会に出場していたので、我々高校生6名を引率して、まだ宅配

便などないので、弓と荷物を持ち、何度も乗り換えをしながらの旅は大変だったろうなあ、と今になって感謝しています。

翌年は、国体に出場しました。岡山で開催され、北海道代表選手団は、臨時列車で集団移動でしたので、今度は楽な移動でした。

岡山では歴史的にも有名な「吉備津神社」が大会会場となり、50数年ぶりに昨年その神社を訪れることが出来、思い出の場所を確認するなど楽しんで来しました。

この大会の思い出は、宿舍の周りは「柿」だらけで「いくら食べてもいいよ！」と言われ、大好きな果物なので、朝から晩まで取っては、食べ、取っては食べ……。

大会の成績は、またもや残念ながら予選通過せず、不甲斐ない成績でした。

しかし、このような旅が出来たことで、旅心が芽生え、その後の人生に『旅行会社へ』という夢を実現することが出来ました。

改めて、このような文章を書いていると「ラッキーで楽しい高校生活だったなあ」と、今72歳になりながら思い出を新たにしております。

東京尊商会平成29年度役員

職名	氏名	期	職名	氏名	期	職名	氏名	期
顧問	藤田 賢治	36期	副会長	小野 政春	49期	常任理事	千葉 敏朗	53期
顧問	高橋 光雄	39期	副会長	田中 光隆	49期	常任理事	成沢 桂	68期
顧問	宮尾 玲子	40期	副会長	村井 健	51期	常任理事	井上 和弘	69期
顧問	星 観二	41期	監事	土橋 弘幸	43期	理事	倉重 敬子	46期
顧問	市川 東紀宗	42期	監事	村松 次男	51期	理事	高橋 和子	46期
相談役	島 久雄	41期	常任理事	原田 登志子	43期	理事	山田 幸雄	47期
相談役	澤山 良一	42期	常任理事	戸井 吾郎	47期	理事	須戸 美代子	49期
会長	中村 みのり	41期	常任理事	坂崎 登	53期	理事	田中 則夫	51期
						理事	大高 敏孝	55期
						事務局長	浜谷 哲男	45期



役員の皆さん。右より 53期 千葉、45期 浜谷、41期 星、41期 中村、42期 市川、42期 澤山、41期 島、46期 倉重、51期 村井

お知らせ

今年の東京尊商会「同窓の絆」総会は

平成29年10月28日(土)

12:45より受付 13時開会

ホテル東京ガーデンパレス

東京都文京区湯島 1-7-5

御茶ノ水駅下車 聖橋口より徒歩5分

事務局へのご連絡は 浜谷哲男 TEL (FAX) 03-3822-2769 03-3822-2769

会員の住所変更など、気軽に相談下さい。ご意見大歓迎！

編集後記

先日、埼玉県戸田市にある戸田公園ボート競技場に、同期の倉地さんの出場する「第10回全日本マスターズレガッタ競技大会」を同期の藤森氏と応援に行ってきました。

出場選手の最高齢は80歳代。60代、70代の壮年がボートを神輿のように担ぎ、また艇を担ぎ戸田漕艇場へ。大型トラックが細長いボートを何層も積み上げて、地方から輸送されておりました。河の両サイドには、旧制大学・有名私立大学・有名老舗企業などの立派なハウス兼艇庫が立ち並び、歴史を感じる建物で、昔から若い世代が汗を流したと思われるボートの聖地です。

小樽商業高校ボート部は私たちの在校時に再創部され、女性性は10名弱でした。小樽港運河を練習拠点に全国大会で優勝し、一世を風靡しました。

靡しましたが、今では廃部になっているようです。

倉地さんはその後「三馬ゴム」の実業団で活躍し、結婚・お子さんの教育等をへて、再び42歳から北海道札幌バラストウでボート練習に参加。全て自分が参加申請・宿泊所・食事・弁当・飛行機チケット等手続きを何役もこなし、全国で行われる大会に参加しています。同世代が広い川・運河・港湾内で足腰を鍛えつつ、日々特訓している様子は、何かしらエネルギーを感じられずにはおれません。

1艇5名、彼女のチームメンバーは皆年上で、当日は2競技に出場し、滑るボートは優勝を勝ち得ました。

表彰式・記念撮影を終え、東京海上火災さんのハウス食堂で、弁当をいただきました。そこにはオールを立てた若人の写真が所狭しと飾られ、歴史ある企業的一端を垣間見た感じです。

帰りに、近くの戸田公園駅前の居酒屋で同期の3人で祝勝会。「ウー、ウーウー」と大声を上げるのが、ボート仲間での「乾杯」だそうです。隣席からも大きな声のうなりが聞こえ、私には驚きでした。来年は、熊本でシニアの大会が予定されているそうです。



戸田公園ボート競技場
前列右端が倉地さん

2017 08 04